

## 4 令和3年度 後期教職員自己評価集計結果

### I 学校経営・組織・安全管理

| NO | 評価項目                                    | 回答数 | R3 後期 |   | 判定  | R3 前期 | R2 後期 | 昨年度関連2項目の平均値 |       |       |       | 昨年度関連分野の数値 |        |
|----|-----------------------------------------|-----|-------|---|-----|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|------------|--------|
|    |                                         |     |       |   |     |       |       | 4の回答数        | 3の回答数 | 2の回答数 | 1の回答数 | 肯定的回答%     | 否定的回答% |
| 1  | 学校教育目標の達成に向け、学校経営方針に基づいた学校運営がなされている     | 31  | 3.7   | A | 3.7 | 3.8   |       | 22           | 9     | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 2  | 教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係のもと協働的に教育活動が行われている | 31  | 3.4   | A | 3.4 | 3.7   |       | 13           | 17    | 1     | 0     | 97%        | 3%     |
| 3  | 施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整備・保全）している     | 31  | 3.9   | A | 3.9 | 3.8   |       | 29           | 2     | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 4  | 事故や災害等に対し、適切な対応マニュアルが整備され、危機管理に努めている    | 31  | 3.8   | A | 3.7 | 3.8   |       | 25           | 6     | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 5  | 生徒の個人情報について、適切に管理・保護されている               | 31  | 3.6   | A | 3.7 | 3.6   |       | 20           | 11    | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 6  | 新型コロナウイルス等について、正しい知識で感染防止対策に取り組むよう努めている | 31  | 3.8   | A | 3.8 | 3.4   |       | 24           | 7     | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 7  | ライフ・ワーク・バランスを意識した業務改善に取り組んでいる           | 29  | 3.5   | A | 3.3 | -     |       | 15           | 13    | 1     | 0     | 97%        | 3%     |

【記述による回答】

○細やかな管理職の視点で学校運営がなされています。安心・安全な学校生活環境なので、生徒も教師もたいへんに満足感が高い。

○教頭先生が校内の整理整頓や安全点検を丁寧にご覧くださっていることにも感謝しています。

○管理職の先生方の声かけで、自分の仕事内容を考えた勤務時間を設定するようになった。また、心身の健康増進を意識し、ライフバランスをとることも大切だと3年前から思うようになった。

□担任以外の職員にもクロームブックの配布を望みます。

●（2に関わって）朝の打合せがないことからインフォメーションを活用しているが、確認状況（体制）に温度差がみられ徹底できないことがある。改善を要する。

●（2に関わって）学習資料センターを利用していただくのはよいのですが、使用する際は事前に知らせて（確認して）欲しい。内容によっては終日そこにいなければならない時もある、会議等では席を外したほうがよい時もあり、それにより行動も左右されますので。

●（2に関わって）半日勤務等の先生方と十分に情報伝達できていないところがある。（支援の情報など）

●（7に関わって）部活動の負担感はあるが、やらざるを得ない状況にあるというのが正直な感想です。

### II 教育課程・学習指導

| NO | 評価項目                                               | 回答数 | R3 後期 |   | 判定  | R3 前期 | R2 後期 | 昨年度関連2項目の平均値 |       |       |       | 昨年度関連分野の数値 |        |
|----|----------------------------------------------------|-----|-------|---|-----|-------|-------|--------------|-------|-------|-------|------------|--------|
|    |                                                    |     |       |   |     |       |       | 4の回答数        | 3の回答数 | 2の回答数 | 1の回答数 | 肯定的回答%     | 否定的回答% |
| 8  | 新学習指導要領に基づき「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動の実践を目指している      | 30  | 3.6   | A | 3.6 | 3.6   |       | 19           | 11    | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 9  | 校内研究の主題である、学び合いを通じた確かな学力の向上に向け、授業改善に取り組んでいる        | 30  | 3.7   | A | 3.6 | 3.4   |       | 20           | 10    | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 10 | 道徳の授業の充実にも努めるとともに、他者を思いやる心や規範意識を育てる教育活動を日常的に実施している | 30  | 3.6   | A | 3.5 | 3.5   |       | 19           | 11    | 0     | 0     | 100%       | 0%     |
| 11 | GIGAスクール構想の実現に向け、1人1台端末の積極的な利用に努めている               | 29  | 3.7   | A | 3.4 | -     |       | 21           | 8     | 0     | 0     | 100%       | 0%     |

【記述による回答】

○完全な教育課程の授業実施により、ゆとりが生まれ自信をもって取り組むことができた。授業調整力の高い教務主任に感謝します。

○自分の執務でも、意識し健康相談や日頃の生徒対応に活かしている。

○担当者下、校内研での取り組みや気軽に相談できる環境に感謝しています。

○多くの先生方がICT機器を使って、効率的・能率的で有効な活用方法を見い出そうと取り組んでいるように感じる。

昨年度関連2項目の平均値

| NO | 評価項目                                        | 回答数 | R3<br>後期 | 判定 | R3<br>前期 | R2<br>後期 | 4の<br>回答数 | 3の<br>回答数 | 2の<br>回答数 | 1の<br>回答数 | 肯定的<br>回答% | 否定的<br>回答% |
|----|---------------------------------------------|-----|----------|----|----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| 23 | 生徒の学習や生活の様子を保護者に知らせ、保護者との相互理解を図り、連携している     | 30  | 3.6      | A  | 3.5      | 3.6      | 18        | 12        | 0         | 0         | 100%       | 0%         |
| 24 | 各種たよりやホームページ・学校連絡メールを活用し、保護者や地域への情報提供に努めている | 31  | 3.7      | A  | 3.7      | 3.7      | 21        | 10        | 0         | 0         | 100%       | 0%         |

【記述による回答】

○強歩大会などの行事への保護者、地域の協力があってこそ無事に終了できたと思います。甲西中学校教育への理解度がたいへん高く、生徒指導がとてもやりやすかった。

○PTA活動が少ない本校であるが、コロナ禍でもできることは全て行っていたと思う。学校への保護者の関心はあり、子供たちの成長を見たいと思う親のニーズに応えていたと思います。

○通信など（メール・文書）が、丁寧にしっかりと情報を伝えていると思う。

## 5 後期教職員自己評価の考察

### (1) 教職員自己評価集計結果の概略

教職員自己評価については、31名（非常勤・市職員含む／職務内容により回答不能な項目は未回答）より回答を得た。評価対象である全24項目が、回答平均3.3以上のA判定であった。内訳は、前期比で0.3上回った項目が1、0.2上回った項目が1、0.1上回った項目が8、0.1下回った項目が2、残りの12項目は前期と同等の数値であった。また、肯定的回答率に着目すると、100%の項目が20（前期比+3）、97%が4（前期比-1）であり、97%未満の項目は0（前期比-2）となっている。この結果から、本校の教職員が、前期に増して学校教育目標並びに学校経営方針を意識して教育活動（職務）の遂行に努めていたことが見てとれる。なかでも、**7**「ライフ・ワーク・バランス」・**11**「GIGAスクール構想の実現」に関わる項目については、前期比で顕著に上回る数値が認められた。さらに、**7**「新型コロナウイルスへの感染防止対策」（※昨年度と項目内容の変更がある為、関連項目として）・**9**「校内研への取り組みと授業改善」については、昨年度同期比でも顕著に上回る結果であった。

しかしながら、評価平均3.5未満（※A判定であるものの、やや低めであると判断）の項目や、前期比または昨年度同期比で低下のみられる項目も見受けられるため、真摯な検討を要する。

一時は終息に至るかに思われたコロナ禍も、長期的な感染拡大防止対策の継続にもかかわらず、再び拡大の懸念さえ感じられている。新しい生活様式による学校生活には慣れつつも、制限された教育活動が新たな基準として定着してしまうかのような危惧さえも感じられるなかで、今後も一層状況の変化を見定めつつ、対応力を発揮させていく必要がある。

### (2) 各分野ごとの考察

#### I 学校経営・組織・安全管理

**2**「教職員間の相互理解と協働的な教育活動」の項目は、前期同様3.4とやや低い評価が示された。昨年度と内容や文言を変更した項目ではあるものの、関連項目の昨年度同期の値と比較すると、依然として低めの数値が認められる。前期評価の結果を踏まえ、朝の打合せ削減等による連携不足を補えるよう、いくつかの方策を試みてはいるものの改善までには至っていない。また、勤務体制の異なる職員との連携方法も新たな課題として残される。さらには、日常の校務における報告・連絡・相談体制の重要性も再確認する必要があるといえる。コロナ禍における対応が、今後も継続することを想定するなかで、一層工夫と共通理解に基づいた職務の遂行を全職員で確認したい。

**6**「正しい知識による感染防止対策」の項目は、3.8と前期同様の比較的良好な評価が示された。今後も油断せず、置かれている状況を見定めながら、適切な対策を講じていきたい。

**7**「ライフ・ワーク・バランスと業務改善」の項目は、3.5と前期比で0.2ポイント上昇した。肯定的回答率も7%ほど上回り、多忙化解消・働き方改革に向けての意識が少しずつ高まってきているようにとらえることができる。とは言え、個々における業務量の偏りや部活指導への負担感が解消されたわけではないのも現実である。今後も、アクションシートをもとに、①出退勤時刻の管理と見える化（来年度からは新校務支援システムによる）、②定時退校の勧奨（定時退校日の設定）、③計画年休取得の勧奨（勤務曜日の違いにより設定の困難さもあるが）、④ガイドライン（校内活動規定）に則った部活動の適正な運営、⑤会議の精選（重複内容の削減）と効率化（ICT等を用いた情報伝達の工夫）、⑥役割分担の見直しと協働体制づくり等を中心に、適宜見直しを図りながら働きやすい職場環境づくりを進めていきたい。

#### II 教育課程・学習指導

本分野は、4項目全てにおいて肯定的回答率100%であった。

**9**「校内研への取り組みと授業改善」の項目は、前期比で0.1ポイント、昨年同期比で0.3ポイント上回る3.7の評価が得られた。校内研究の充実と学び合いを実現するための工夫や授業改善に向けた努力が評価に表れてきているものと捉えられる。

**11**「GIGAスクール構想実現に向けた端末の積極的利用」の項目も、前期より0.3ポイント上

昇し 3.7 の数値を示した。前期には、活用に躊躇していた職員も多くみられたが、積極的にチャレンジする姿勢がさまざまな場面で見受けられるようになってきている。今後も予断を許さないコロナ禍において、オンラインによる授業等、一層の柔軟性をもって対応できるように準備をしていく必要がある。

### Ⅲ 生徒指導・教育相談・特別支援教育

本分野も、7 項目全てにおいて肯定的回答率 100%であった。

16「師弟同行の実践と生徒の模範・理解者・支援者」の項目は、前期 3.4 とやや低めの評価であったが、0.1 ポイント上昇し 3.5 とわずかながらではあるが改善がみられた。

17「不登校支援」・18「特別支援教育」の項目については、それぞれ 3.6・3.5 と前期と同様の結果であり、数値的には特別に評価が低いわけではなく、また顕著な低下も認められないが、不登校傾向の生徒も一定数いることや、個の特性に応じた指導の困難さもあることから、十分に満足できる成果とも判断はできない。本分野の項目内容に関わる諸問題については、一朝一夕に解決につなげられるものではないが、職員全体で考えを巡らす校内支援委員会を通じて得られた方策や共通理解をもとに、全職員一丸となりチームとして今後の取り組みを充実させていく。また、保健室やＳＣの対応のなかから、教室に復帰できた生徒がみられるようになったケースもある。多様な関わり方を今後も継続していきたい。

### Ⅳ 特別活動

19「学校行事や生徒会活動等の取り組み」・20「部活動への取り組み」・21「合唱活動の推進」の項目については、十分とはいえないものの、それぞれ前期より 0.1 ポイント上回る結果となった。コロナ対応による制限が全て解除されたわけではないが、生徒も教職員も「何が可能なのか」・「どうしたら可能となるのか」を熟慮し、工夫して取り組んだ成果が評価されているものと捉える。昨今の状況から、感染状況も拡大の様相が想定されるため、これまでの経験を生かしながら対応できるよう準備しておくことが必要である。

22「あいさつができる生徒の育成」の項目については、昨年同期よりも 0.2 ポイント上回ってはいるものの、前期と同様の 3.5 と特別に高い評価ともいえない。記述による回答にも「あいさつ」に関わる低下傾向が指摘されている。また、前期生徒アンケートの補足質問「甲西中のよいと思うところ・誇りに思うところ」の集計結果において「あいさつ」に関わる回答が最も多かったわけだが、後期生徒アンケートの補足質問「改善・伸ばしていった方がよい点」の回答結果に着目すると、いずれの学年においてもやはり「あいさつ」に関する内容の回答が多くみられた。つまり、誇りとすべき活動でありながら、満足に至っていない現状を生徒自らも感じているのではないかと推測される。コロナ禍の影響から、今年度は生徒会によるあいさつ運動なども実施できていない状況である。委員会活動の持ち方も含め、新しい生活様式に当てはめるなかで、再考の余地が残される。

### Ⅴ 保護者・地域連携

2 項目とも肯定的回答率 100%であった。

23「保護者との連携」は、前期比で 0.1 ポイント上昇の 3.6 であった。制限はあるものの、学校開放日における授業参観や新稲祭の観覧、また強歩大会への協力体制づくりなど、可能な範囲での工夫した取り組みが評価されているものと捉える。

24「情報提供」の項目については、3.7 と前期同様の比較的良好な評価が示された。学年のたよりや週予定、学級通信の充実、また文書による通知と平行して運用した学校メール配信により、逐次情報の共有に努めてきた。学校ホームページにも、月当たり 1,500 ほどの訪問者の閲覧が認められている。今後も、保護者や地域の方々に学校生活の様子や行事の実施状況を伝える手段として、掲載内容等を工夫するなかで情報提供に努めていきたい。